

ヨーロッパの司教たち、キリスト教徒への暴力の取り締まりを要求

毎年17万人のキリスト教徒が信仰のために命を失っている。

ブリュッセル、2010年1月27日 (Zenit.org)。

欧州の司教団 (COMECE) の書記長は、声明を発表し、EU議会が最近起こったエジプトとマレーシアでのキリスト教徒への暴力を非難する決議を採択したこと歓迎した。

「去る1月6日、エジプトでコプト教会の信者6人と警官一人が殺害されたことと、一月からマレーシアで教会と他の礼拝の場所が攻撃を受けていることは、基本的人権に対する深刻な侵害である。・・・EUは、キリスト教徒のそれも含めた、世界中で現在迫害を受けている少数派の宗教団体を援助する義務がある。世界の宗教迫害の75～85%はキリスト教徒に向けられているもので、毎年17万人のキリスト教徒が信仰のために命を失っている。暴力的な迫害を受けているキリスト信者の数は2百万人にのぼる」とCOMECEは言う。

ヨーロッパ司教団によると、この欧州評議会の議決は2009年11月16日にEUの閣僚委員会で採択された議決を反映している。それは、「宗教と信仰の自由を擁護し促進するというEUの堅い決意と、EUの人権政策の一部をなすものとして、この種の問題を優先的に扱う意向を再確認する」ものである。

欧州評議会と閣僚会議がこのような断固たる態度を示したのは、COMECEが欧州連合の外相キャサリン・アシュトン Catherine Ashton に呼びかけ、彼女が責任者であり、立ち上げたばかりのヨーロッパの対外援助部の活動に、この問題を優先させるよう頼んだことがある。

COMECEの司教たちは、EUの対外関係において宗教の自由を擁護するための具体的な手段をとる人々を適切に助けるという目的で、世界での宗教の自由の擁護に関する覚書を作成する専門家のグループを発進させた。

その文書は、基本的人権の侵害や、世界での宗教迫害の実態を報告し、ヨーロッパの諸団体に一連の提案を上げているが、次回のCOMECEの総会(2010年4月14～16日)で可決されてから、EUの様々な責任者や議員に送られる予定である。